

参考資料

1. グリーンインフラに関連する参考資料
2. 用語の解説
3. アンケート調査

1. グリーンインフラに関連する参考資料

(1)グリーンインフラに関連する行政計画

文書名	発行年月	発行者	掲載 URL
世田谷区基本構想	平成 25(2013)年 12 月	世田谷区 基本構想・政策研究担当部 基本構想・政策研究担当課	https://www.city.setagaya.lg.jp/mokuji/kusei/002/001/001/d00131623.html
世田谷区基本計画（平成 26 年度(2014 年度)～令和 5 年度(2023 年度)）	平成 26 年 3 月	世田谷区 政策経営部 /世田谷区 基本構想・政策研究担当部	https://www.city.setagaya.lg.jp/mokuji/kusei/002/001/002/d00131681.html
世田谷区都市整備方針(世田谷区の都市計画に関する基本的な方針) 第一部「都市整備の基本方針」	平成 26 年(2014 年)4 月	世田谷区 都市整備部 都市計画課	https://www.city.setagaya.lg.jp/mokuji/sumai/001/001/d00132219.html
世田谷区都市整備方針(世田谷区の都市計画に関する基本的な方針) 第二部「地域整備方針」	平成 27 年(2015 年)4 月	世田谷区 都市整備部 都市計画課	https://www.city.setagaya.lg.jp/mokuji/sumai/001/001/d00138618.html
世田谷区みどりの基本計画 2018 年度～2027 年度	2018(平成 30)年 4 月	世田谷区 みどり 33 推進担当部 みどり政策課	https://www.city.setagaya.lg.jp/mokuji/sumai/010/002/001/d00017133_d/fil/kihonkeikaku.pdf
世田谷区豪雨対策基本方針～水害に強い安全・安心のまち世田谷～	平成 28 年 3 月	世田谷区 土木事業担当部 土木計画課	https://www.city.setagaya.lg.jp/mokuji/kurashi/005/003/007/d00027833_d/fil/27833_11.pdf
世田谷区豪雨対策行動計画(改定)	令和 4 年 3 月	世田谷区 土木部 豪雨対策・下水道整備課	https://www.city.setagaya.lg.jp/mokuji/kurashi/005/003/007/d00137458_d/fil/137458-1.pdf
世田谷区第四次住宅整備方針	令和 3(2021)年 6 月	世田谷区 都市整備政策部 住宅管理課	https://www.city.setagaya.lg.jp/mokuji/sumai/002/003/d00191925.html
世田谷区環境基本計画(後期) 【2020 年度(令和 2 年度)～2024 年度(令和 6 年度)】	2020 年(令和 2 年)3 月	世田谷区 環境政策部 環境計画課	https://www.city.setagaya.lg.jp/mokuji/sumai/011/010/d00130008_d/fil/kankyokihonkeikaku.pdf
世田谷区地球温暖化対策地域推進計画 【2023(令和 5)年度～2030(令和 12)年度】	2023(令和 5)年 3 月	世田谷区 環境政策部 環境計画課	https://www.city.setagaya.lg.jp/mokuji/sumai/011/010/d00038749_d/fil/ontaikeikaku.pdf

(2)グリーンインフラに関連する参考資料

文書名	発行年月	発行者	掲載 URL
せたがやグリーンインフラライブラリー2023	令和 5 年 11 月	世田谷区 土木部 豪雨対策・下水道整備課	https://www.city.setagaya.lg.jp/mokujisumai/009/d00188532_d/fil/188532-1.pdf
グリーンインフラ助成パンフレット みんなのできる雨水対策 グリーンインフラを拡げて いきましょう！	令和 4 年 7 月	世田谷区 土木部 豪雨対策・下水道整備課/ 世田谷区 みどり 33 推進担当部 みどり政策課	https://www.city.setagaya.lg.jp/mokujisumai/009/d00188532_d/fil/188532-2.pdf
令和 3 年度第 2 回区政モニターアンケート結果（令和 3 年 7 月実施） テーマ：「世田谷区のグリーンインフラについて」	令和 4 年 5 月	世田谷区 土木部 豪雨対策・下水道整備課/ 世田谷区 デジタル改革担当部 デジタル改革担当課/ 世田谷区 政策経営部 広報広聴課	https://www.city.setagaya.lg.jp/mokujikusei/006/004/d00198234_d/fil/3.pdf
マッチングによる政策の推進「マッチングレポート第 6 号」 「世田谷区グリーンインフラ庁内連携プラットフォーム」による庁内連携	令和 4 年 5 月	世田谷区 土木部 豪雨対策・下水道整備課/ 世田谷区 政策経営部 経営改革・官民連携担当課	https://www.city.setagaya.lg.jp/mokujikusei/002/001/002/d00137890_d/fil/137890_6.pdf

(3)みどり・生物多様性に関連する参考資料

文書名	発行年月	発行者	掲載 URL
世田谷区みどりの行動計画 (令和4年度～令和5年度)	2022(令和4)年4月	世田谷区 みどり 33 推進担当部 みどり政策課	https://www.city.setagaya.lg.jp/mokuj i/sumai/010/002/001/d00017133_d/fil/koudoukeikaku.pdf
生きものつながる世田谷プラン ～生きもの元気！ひとも元気！生物多様性地域戦略～	2017(平成29年)3月	世田谷区 みどりとみ ず政策担当部 みどり政策課	https://www.city.setagaya.lg.jp/mokuj i/sumai/010/002/001/d00152400_d/fil/plan.pdf
世田谷区建築にともなう緑化のための植栽ガイドブック	平成22年6月	世田谷区 みどり 33 推進担当部 みどり政策課	https://www.city.setagaya.lg.jp/mokuj i/sumai/010/004/001/d00029589.html
まちの生きものしらべガイドブック	2018年(平成30年)4月	世田谷区 みどり 33 推進担当部 みどり政策課	https://www.city.setagaya.lg.jp/mokuj i/sumai/010/003/005/d00142949_d/fil/2.pdf
世田谷区都市公園等調書	2023年(令和5年)5月	世田谷区 みどり 33 推進担当部 公園緑地課	https://www.city.setagaya.lg.jp/mokuj i/sumai/012/003/d00159720.html
世田谷区立公園等長寿命化改修計画	平成29年3月	世田谷区 みどりとみ ず政策担当部 公園緑地課	https://www.city.setagaya.lg.jp/mokuj i/sumai/010/002/001/d00184153.html
世田谷名木百選	令和2(2020)年9月	世田谷区	https://www.city.setagaya.lg.jp/mokuj i/sumai/010/003/002/d00029491.html
世田谷区農業振興計画〔改定版〕	令和5年(2023年)9月	世田谷区	https://www.city.setagaya.lg.jp/mokuj i/shigoto/009/d00022977_d/fil/nougyousinkoukeikaku.pdf

(4)雨水流出抑制施設に関連する参考資料

文書名	発行年月	発行者	掲載 URL
世田谷区雨水流出抑制施設技術指針 (雨水流出抑制施設設置計算書)	令和4年4月 (令和4年7月)	世田谷区 土木部 豪雨 対策・下水道整備課	https://www.city.setagaya.lg.jp/mokuj i/sumai/009/002/004/d00029779.html (https://www.city.setagaya.lg.jp/mokuj i/sumai/009/002/004/d00029779_d/fil/29779_5.pdf)
雨水流出抑制施設設置のお願い ～世田谷区雨水流出抑制施設の設置に関する指導要綱の手引き～	令和4年4月	世田谷区 土木部 豪雨 対策・下水道整備課	https://www.city.setagaya.lg.jp/mokuj i/sumai/009/002/004/d00029779_d/fil/29779_7.pdf
雨水流出抑制施設の設置に関する協議の手引き	令和4年7月	世田谷区	https://www.city.setagaya.lg.jp/mokuj i/sumai/009/002/004/d00029779_d/fil/29779_8.pdf

(5) 区の地域概況に関連する参考資料

文書名	発行年月	発行者	掲載 URL
世田谷の土地利用 2021～世田谷区土地利用現況調査～	2023 年 4 月	世田谷区 都市整備政策部 都市計画課	https://www.city.setagaya.lg.jp/mokujisumai/001/001/d00123789.html
令和 3 年度世田谷区みどりの資源調査報告書	令和 4 年 3 月	世田谷区	https://www.city.setagaya.lg.jp/mokujisumai/010/002/002/d00199997.html

(6) 関連する区例規類（条例・規則）・要綱

例規名（発令）	最終改正公布日	所管部署	掲載 URL
世田谷区みどりの基本条例（平成 17 年 3 月 14 日 条例第 13 号）	平成 25 年 10 月 1 日	世田谷区 みどり 33 推進担当部みどり政策課	世田谷区例規類集（条例・規則集）（ https://ops-jg.d1-law.com/opensearch/init?jctcd=8A801680C5 ）から検索
世田谷区みどりの基本条例施行規則（平成 17 年 4 月 1 日 規則第 77 号）	令和 4 年 6 月 16 日	世田谷区 みどり 33 推進担当部みどり政策課	世田谷区例規類集（条例・規則集）（ https://ops-jg.d1-law.com/opensearch/init?jctcd=8A801680C5 ）から検索
世田谷区建築物の建築に係る住環境の整備に関する条例（平成 13 年 12 月 10 日 条例第 68 号）	令和 3 年 12 月 10 日	世田谷区 都市整備政策部 建築調整課	https://www.city.setagaya.lg.jp/mokujisumai/002/002/001/d00156998_d/fil/156998_7.pdf
世田谷区建築物の建築に係る住環境の整備に関する条例施行規則（平成 14 年 3 月 11 日 規則第 15 号）	令和 3 年 1 月 29 日	世田谷区 都市整備政策部 建築調整課	世田谷区例規類集（条例・規則集）（ https://ops-jg.d1-law.com/opensearch/init?jctcd=8A801680C5 ）から検索
世田谷区グリーンインフラ庁内連携プラットフォーム設置要綱（令和 2 年 10 月 27 日 2 世豪下整第 200 号）	令和 4 年 11 月 18 日	世田谷区 土木部 豪雨対策・下水道整備課	世田谷区要綱集（ https://www.city.setagaya.lg.jp/mokujikusei/003/d00120036.html ）から検索
世田谷区雨水流出抑制施設の設置に関する指導要綱（平成 22 年 7 月 12 日 22 世土計第 204 号）	令和 4 年 3 月 9 日	世田谷区 土木部 豪雨対策・下水道整備課	https://www.city.setagaya.lg.jp/mokujisumai/009/002/004/d00029779_d/fil/29779_1.pdf
世田谷区雨水浸透施設設置助成金交付要綱（昭和 63 年 7 月 1 日 施行）	令和 5 年 3 月 28 日	土木部 豪雨対策・下水道整備課	https://www.city.setagaya.lg.jp/mokujikurashi/005/003/004/d00032867_d/fil/32867_6.pdf
世田谷区温泉掘削に伴う地下水及び湧水の保全に関する要綱（平成 18 年 10 月 1 日 18 世み政第 137 号）	—	世田谷区 みどり 33 推進担当部 みどり政策課	https://www.city.setagaya.lg.jp/mokujisumai/010/004/003/d00009291_d/fil/9291_1.pdf
世田谷区住宅条例（平成 2 年 3 月 14 日 世田谷区条例第 23 号）	平成 19 年 3 月 14 日	世田谷区 都市整備政策部 居住支援課	https://www.city.setagaya.lg.jp/mokujisumai/002/003/d00011976_d/fil/jyoubun.pdf

2. 用語の解説

ガイドラインで使用している主な用語について、以下のとおり解説を付しました。

なお、複数の意味を有する用語については、ガイドラインで使用している用語の意味を解説しました。

ア行

用語	解説
アールイーヒャク RE100	地球温暖化の原因とされる温室効果ガスの削減のため、企業が事業運営で消費する電力を 100%再生可能エネルギーでまかなうことを目標に掲げる取組みです。「Renewable Energy 100%」の頭文字を取り、RE100 と呼ばれており、国際的な取組みとして注目を集めています。
あめかたん 雨花壇	基礎部を碎石等 ^{さいせき} で置換することにより、雨水を貯留させながら地中へ分散、浸透させる施設をいいます。
あめにわ 雨庭	地盤部を碎石等 ^{さいせき} で置換することにより、雨水を貯留させながら地中へ分散、浸透させる施設をいいます。周辺に植栽した植物や景石等により、都市型水害の軽減のほか、良好な風景の形成やヒートアイランド現象の緩和等の効果も期待されます。
イーブイ E V (Electric Vehicle)	電気自動車の略称です。電気自動車とは、電気をエネルギー源とし、電動機（電気モーター）で走行する自動車のことです。化石燃料を燃焼させる内燃機関（内燃エンジン）を持たないことから、走行時に二酸化炭素（CO2）や窒素酸化物を排出しないゼロエミッション車の1種です。
いけがき 生垣	生きている植物でつくる垣根のことをいいます。
いちりづか 一里塚	江戸の日本橋を目印として街道の側に 1 里毎に設置した塚（土盛り）のことであり、多くは塚の上に榎や松を植えて、旅人の目印にしたものです。
いっきゅうかせん 一級河川	国土保全上又は国民生活上特に重要な水系として政令指定された水系（一級水系）に係る河川で国土交通大臣が指定するものです。
インタープリタ ー	自然観察、自然体験などの活動を通して、自然を保護する心を育て、自然にやさしい生活の実践を促すため、自然が発する様々な言葉を人間の言葉に翻訳して伝える人をいいます。一般的には植生や野生動物などの自然物だけでなく、地域の文化や歴史などを含めた対象の背後に潜む意味や関係性を読み解き、伝える活動を行なう人を総称していいます。
インフラストラ クチャー	生活や産業活動の基盤となっている施設のことをいいます。

ア行

用語	解説
ウェルビーイング (Well-being)	心身と社会的な健康を意味する概念であり、持続的な幸せや充足した生活を送ることができている状態を表す言葉です。
うすい 雨水タンク	屋根に降った雨水を一時的に貯留する施設です。雨水タンクに貯留されることで、雨水が河川や下水道に集中して流れ込むことを抑制するとともに、降雨時に貯留された雨水が、庭の水やり等の生活用水として利用できます。また、その結果として、節水効果が期待されます。
うすいちりゅう 雨水貯留	雨水を流出させずに貯留し、時間をかけて浸透させることです。レインガーデンなどの雨水貯留施設の整備により、豪雨時に雨水が一気に下水道に流れ込むことを防ぐことです。
うすいちりゅうしんとう 雨水貯留浸透 施設	雨水を一時的に貯留し、又は地下に浸透させる機能を有する施設です。都市化によって低下した流域の雨水貯留浸透機能を回復させる効果等があります。
エーアイ AI (Artificial Intelligence)	人工知能と訳されています。AI に関する確立した定義はないのが現状ですが、あえていえば、「AI」とは、人間の思考プロセスと同じような形で動作するプログラム、あるいは人間が知的と感じる情報処理・技術といった広い概念で理解されています。
エコロジカル ネットワーク	優れた自然環境を有する地域を核として、これらを有機的につなぐことにより、生物の生息・生育空間のつながりや適切な配置を確保する生態系ネットワークのことです。
ソーシャルネットワーキングサービス SNS (Social networking service)	登録された利用者同士が交流できる Web サイトの会員制サービスのことです。友人同士や、同じ趣味を持つ人同士が集まったり、近隣地域の住民が集まったりと、ある程度閉ざされた世界にすることで、密接な利用者間のコミュニケーションを可能にしています。最近では、会社や組織の広報としての利用も増えてきました。
エスディーゼーズ SDGs (Sustainable Development Goals)	持続可能な開発目標 (SDGs : Sustainable Development Goals) の 17 の目標は、「経済」「社会」「自然資本」の 3 層に分類可能であり、「経済」は「社会」に、「社会」は「自然資本」に支えられる構造となっています。本テーマの「持続可能なまちづくり」、「次世代まで住み続けられるまちづくり」は、SDGs の 11 番目のゴール、「社会」面に属するゴールであり、「 <small>ほうせつ</small> 包摂的で安全かつ強靱(レジリエント)で持続可能な都市及び人間居住を実現する」ことが目標として示されています。

ア行

用語	解説
えんせき 縁石	車道と歩道、安全地帯との境界線として、路肩に敷かれるコンクリートなどで作られた棒状の石の総称です。
オーイーシーエム O E C M (Other Effective area-based Conservation Measures)	OECM とは、保護地域以外で生物多様性保全に資する地域のことで、民間等の取組により保全が図られている地域や保全を目的としない管理が、結果として自然環境を守ることに貢献している地域を指します。
オープンハウス (Open House)	オープンハウス(Open House)とは、英語で一般公開、開放という意味で、普段は公開されていない場所を一般の人に開放し、カジュアルな雰囲気の中で業務や活動についての紹介を行ったり、意見交換など行うイベントのことです。
おくじょうりよっか 屋上緑化	建築物の断熱性や景観の向上、生態系の創出などを目的として、屋根や屋上に植物を植え緑化することです。
おんしつこうか 温室効果ガス	大気を構成する気体であって、赤外線を吸収し再放出する気体。地球温暖化対策の推進に関する法律では、二酸化炭素、メタン、一酸化二窒素、ハイドロフルオロカーボン類、パーフルオロカーボン類、六ふっ化硫黄、三ふっ化窒素の7物質を温室効果ガスとしています。

カ行

用語	解説
がいのすいはんらん 外水氾濫	河川の水位が上昇し、堤防を越えたり、 ^{はてい} 破堤するなどして、堤防から水があふれることをいいます。
がいのすいじゆ 街路樹	道路景観の向上や沿道環境の保全、道路交通の安全性・快適性の確保等を目的として道路空間に植栽されるものです。
かすみてい 霞堤	霞堤は、堤防のある区間に開口部を設け、その下流側の堤防を堤内地側に延長させて、開口部の上流の堤防と二重になるようにした不連続な堤防です。戦国時代から用いられており、霞堤の区間は堤防が折れ重なり、霞がたなびくように見えるようすから、こう呼ばれています。霞堤には2つの効果があり、一つは、平常時に堤内地からの排水が簡単にできます。もう一つは、上流で堤内地に氾濫した水を、霞堤の開口部からすみやかに川に戻し、被害の拡大を防ぎます。
かんさきょうきょういく 環境教育	持続可能な社会の構築を目指して、家庭、学校、職場、地域その他のあらゆる場において、環境と社会、経済及び文化とのつながりその他環境の保全についての理解を深めるために行われる環境の保全に関する教育及び学習をいいます。

カ行

用語	解説
かんぼつざい 間伐材	植林してある程度育ってから主伐されるまでの間に、繰り返し実施される間引き伐採を間伐といい、間伐の過程で発生する木材のことを間伐材といいます。
きこうへんどうかんわさく 気候変動緩和策	原因物質である温室効果ガスの排出量を削減する（または植林などによって吸収量を増加させる）ことであり、大気中の温室効果ガス濃度の制御等を通じ、自然・人間システム全般への影響を制御することです。
きこうへんどうてきおうさく 気候変動適応策	現実の気候または予想される気候及びその影響に対する調整の過程のことです。人間システムにおいて、適応は害を和らげもしくは回避し、または有益な機会を活かそうとすることです。一部の自然システムにおいては、人間の介入は予想される気候やその影響に対する調整を促進する可能性があります。
グリーンインフラ	自然環境が持つ様々な機能を目的に応じて積極的かつ有効に活用することで、安全で快適な都市の環境を守り、街の魅力を高める社会基盤や考え方のことをいいます。
グレーインフラ	従来の人工構造物を中心とするインフラストラクチャーのことをいいます。
はいかくきほ 計画規模	洪水を防ぐための計画を作成するとき、被害を発生させずに安全に流すことのできる洪水の大きさ（対策の目標となる洪水の規模）のことを計画規模といいます。
ごうう 豪雨	著しい災害が発生した顕著な大雨現象のことです。気象庁によれば、「著しい災害とは、激甚災害、命名された大雨災害」、「既に命名された現象もしくはそれに匹敵する過去事象に対する使用に限定する」、「命名の目安は「浸水家屋 10000 棟」等」とのことです。
こうごうせい 光合成	光エネルギーを化学エネルギーに変換して生体に必要な有機物質を作り出す反応過程のことです。葉緑体をもつ一部の真核生物（植物、植物プランクトン、藻類）や、原核生物であるシアノバクテリアが行う例が知られており、これらの光合成生物は、光から得たエネルギーを使って、二酸化炭素からグルコースのような炭水化物を合成します。この合成過程は炭素固定と呼ばれ、生命の体を構成するさまざまな生体物質を生み出すために必須であり、生物圏における物質循環に重要な役割を果たしています。

カ行

用語	解説
こうどけいざいせいちようき 高度経済成長期	飛躍的に経済規模が継続して拡大することであり、日本においては、実質経済成長率が年平均で 10%前後を記録した 1955 年頃から 1973 年頃までを高度経済成長期と呼びます。
こうようじゆ 広葉樹	葉が広く平たいサクラやケヤキ、ブナなどの被子植物に属す木本をいいます。双子葉植物が多いですが、ヤシ科、リュウゼツラン科等の単子葉植物も存在します。常緑性と落葉性の樹木があり、それぞれ常緑広葉樹、落葉広葉樹と呼ばれます。針葉樹の対義語になります。
こくぶんじがいせん 国分寺崖線	立川市から大田区まで続く崖の連なりのこと。多摩川が 10 万年以上の歳月をかけて武蔵野台地を削り取ってできた段丘で、その周辺には樹林や湧水などが多く残り、生物にとっても重要な生息空間になっています。「みどりの生命線」ともいわれます。
こだてじゆうたく 戸建住宅	一世帯が住む、独立した一棟の住居のことです。
こていしさんぜい 固定資産税	土地や建物などの不動産や、事業で使用する設備品や機械等の固定資産にかかる税金のことです。
コミュニティ	地域住民が生活している場所、活動などを通じて住民相互の交流が行われている地域社会のことです。
コリドー	建物に付属して造られた長い廊下、回廊 ^{かいろう} など。建物の間をつなぎ、あるいは建物や中庭の周りを回るように設置される通路のことをいいます。

サ行

用語	解説
サーティバイサーティ 30 by 30	2030 年までに陸と海の 30%以上を健全な生態系として効果的に保全しようとする目標のこと。昆明・モンテリオール生物多様性枠組の主要な目標として掲げられています。
さいせいかのう 再生可能 エネルギー	エネルギー源として持続的に利用することができる再生可能エネルギー源を利用することにより生じるエネルギーの総称。具体的には、太陽光、風力、水力、地熱、太陽熱、バイオマスなどをエネルギー源として利用することを指します。
さとやま 里山	集落、人里に隣接した結果、人間の影響を受けた生態系が存在する山のことをいいます。深山の対義語です。
じせいち 自生地	野生生物が自然の状態で生息・生育している場所のことです。移入種の生息・生育地は含みません。

サ行

用語	解説
しぜんきょうせい 自然共生サイト	「自然共生サイト」とは、「民間の取組等によって生物多様性の保全が図られている区域」を国が認定する区域のことです。認定区域は、保護地域との重複を除き、「OECM」として国際データベースに登録されます。
しぜんしほん 自然資本	自然資本とは、再生可能及び非再生可能資源や生態系サービスのフローを社会に供給する自然資産のストックのことです。経済学においては、生産の基盤となる資本として、伝統的には、人工資本と人的資本が注目されてきましたが、近年はそれらとならんで自然資本の重要性が注目されています。
しぜん 自然とのふれあいの場	自然とのふれあいは、人が自然環境のもたらす恵沢を享受する基本的かつ具体的な行動であり、人々が自然を大切にすることを育み、人間性を回復するための必須条件です。原野や原生的な森林などの自然性の高い地域で豊かな自然を体験することや、身近な場所での自然とのふれあいは、人間性を回復するために有効と考えられています。このような豊かな自然とふれあえる場として、自然公園や温泉地、都市公園等が挙げられます。
しぜんめん 自然面	樹木地、草地、屋上緑地、農地、裸地、水面など、建築物等の人工物に覆われていない土地のことです。
しゃじりん 社寺林	神社や寺の敷地内に成立している森林のことです。神社や寺は数百年前から千年以上前に作られているものもあり、その時代から社寺林があったと考えられます。社寺林は人によって管理されてはいても、改変が少ないため、希少な生きものの生息生育場所となっていることがあります。
しゅうごうじゅうたく 集合住宅	同じような場所で数時間にわたり強く降り、100mm から数百 mm の雨量をもたらす雨のことをいいます。
しゅうちゅうごう 集中豪雨	同じような場所で数時間にわたり強く降り、100mm から数百 mm の雨量をもたらす雨のことをいいます。
じゆかん 樹冠	樹木のうち葉と枝の集まった部分を指します。
しゅうこんそう 宿根草	多年生の草本のうち、生育に適さない時期には地上部が枯れてしましますが、その時期を過ぎると発芽して再び生育を始めるものをいいます。

サ行

用語	解説
しょう エネポイント アクション	世田谷区で行われている、区民の省エネの取組みを支援するための事業です。参加登録をして、電気やガスの使用量削減や、環境性の高い再生可能エネルギー電力への切り替えに取り組むことで、せたがや Pay ポイントを獲得できます。
しょうさん 蒸散	葉における水分の蒸散は、主として気孔を通じて行われており、クチクラ層を通じて行われる蒸散は一般に小さいといわれています。前者を気孔蒸散、後者をクチクラ蒸散といいます。
しょくひん 食品ロス	本来食べられるのに捨てられてしまう食品をいいます。
しんとうせいほそう 浸透性舗装	舗装体を通じて雨水を直接路床へ浸透させ、地中に浸透させる舗装をいいます。
しんとうそっこう 浸透側溝	U型溝等の底面や側面に透水性のコンクリート材を使用し、その周囲を碎石で充填して、集水した雨水を地下に浸透させる側溝類をいいます。
しんとう 浸透トレンチ	多くの穴が開いている管のことで、雨水が地下に浸透・貯留しやすいよう碎石層（浸透基盤）を設け敷地内の雨水を地下に染み込ませる働きがあります。
しんとう 浸透ます	コンクリート（又は合成樹脂 ^{こうせいじゆし} ）製で、底面や側面に多くの穴があいている ^{ます} のことで、碎石層（浸透基盤）も設けて敷地内の雨水を集水して地下に染み込ませる働きがあります。
シンボルツリー	住宅や建築物、通りなど、目立つところに植えられ、その地域を象徴する背の高い樹木のことをいいます。
しんようじゆ 針葉樹	葉が針のように細長く堅い葉をつけるマツやスギなどの裸子植物球果植物門の樹木のことで、広葉樹の対義語になります。
せいたいけい 生態系	ある地域に棲む全ての生物とその地域内の非生物的環境をひとまとめにし、主として物質循環やエネルギー流に注目して、機能系として捉えた系のことです。生産者、消費者、分解者、非生物的環境で構成されます。
せいたいけい 生態系サービス	食料や水の供給、気候の安定など、 ^{せいぶつたようせい} 生物多様性を基盤とする生態系から得られる恵みをいいます。
せいぶつたようせい 生物多様性	生きものたちの豊かな個性とつながりのことをいいます。

サ行

用語	解説
せたがや 世田谷の トラスト ^{うんどう} 運動	世田谷のトラスト運動は、単にみどりを守るというだけでなく、地域に誇りと愛着を持った人々が、ボランティアとして主体的に環境保全を進めています。（一財）世田谷トラストまちづくりは、みどりや水辺などの自然環境や、近代建築などの歴史的文化遺産などを区民共有の宝物として、協力しながら守り育て、次世代に引き継いでいくことを目的とした“世田谷のトラスト運動”を進めています。
ぜぶ ZEB	Net Zero Energy Building（ネット・ゼロ・エネルギー・ビル）の略称です。室内環境の質を維持しつつ、大幅な省エネルギー化を実現した上で、エネルギー自立度を極力高め、再生可能エネルギーを導入することにより、年間の一次エネルギー消費量の収支をゼロとすることを目指した建築物のことです。
ぜぶ ZEV	Zero Emission Vehicle（ゼロ・エミッション・ビークル）の略称です。東京都は、走行時に二酸化炭素等の排出ガスを出さない電気自動車（EV）や燃料電池自動車（FCV）、プラグインハイブリッド自動車（PHV）をZEVに位置づけています。狭義には、ガソリンを使わないことにより、CO ₂ だけでなく、大気汚染の原因となるNO _x 、SO _x なども含め、排出ガスを一切出さない電気自動車や燃料電池自動車を指します。
せんじょうこうすいたい 線状降水帯	次々と発生する発達した雨雲（積乱雲 ^{せきらんうん} ）が列をなした、組織化した積乱雲群によって、数時間にわたってほぼ同じ場所を通過または停滞することで作り出される、線状に伸びる長さ 50～300km 程度、幅 20～50km 程度の強い降水をともなう雨域を線状降水帯といいます。
せんてい 剪定	果樹の生育や結実を調節するために、枝の一部を切り取ることで
そうぞくぜい 相続税	人の死亡を原因とする財産の移転（相続）に着目して課される税金のことです。相続税法（昭和 25 年 3 月 31 日法律第 73 号）に基づき課されます。

タ行

用語	解説
だつたんそ 脱炭素	気候変動による被害を最小限に食い止めるため、温室効果ガスの大気への排出量を実質ゼロにすることです。
たねんそう 多年草	個体として複数年にわたって生存する植物のことを多年生植物といい、草本に対して用いられる場合に、多年草と呼ぶことがあります。

夕行

用語	解説
<p>た 田んぼダム</p>	<p>「田んぼダム」とは、「田んぼダム」を実施する地域やその下流域の湛水被害リスクを低減するための取組です。水田の落水口に流出量を抑制するための堰板や小さな穴の開いた調整板などの器具を取り付けることで、水田に降った雨水を時間をかけてゆっくりと排水し、水路や河川の水位の上昇を抑えることで、水路や河川から溢れる水の量や範囲を抑制することができます。</p>
<p>ちかすいかんよう 地下水涵養</p>	<p>雨水浸透による地下水保全効果をいいます。</p>
<p>ちかちよりゆうしんとうそう 地下貯留浸透槽</p>	<p>雨水貯留浸透槽とは雨水を一時的に貯めたり、地中に浸透処理することで雨水が河川や下水道に流出するのを抑制する施設をいいます。近年では、プラスチック製のものも普及しています。</p>
<p>ちきゅうおんだんか 地球温暖化</p>	<p>地球は、太陽光のエネルギーを受けて温(あたた)められている一方で、この温められた熱エネルギーを宇宙空間に放出しています。この双方の反復運動がバランスよく行われることにより、国民一人ひとりが住みやすい平均した温度を保っています。ところが二酸化炭素などの温室効果ガスの濃度が上がると、温められた熱を宇宙空間に放出する運動が妨げられ、地球が温室バリアーで包まれた状態になり、地表や海洋の温度が長期的に見て上昇します。この現象を地球温暖化といっています。</p>
<p>ちゅうしゃじょうりよつか 駐車場緑化</p>	<p>駐車場の地表部の一部又は全部について、芝等を用いて緑化することにより、一般的にアスファルトや砂利等からなる駐車場に、グリーンインフラの機能を付与した施設です。</p>
<p>ちゅうすい 宙水</p>	<p>ローム層中に水を通し難い層が介在する場合、水が地中で局所的に受け止められ、地下水が地表に近い位置に分布しているものです。世田谷では、区内の北東部の広い範囲に分布しています。</p>
<p>つる つる植物</p>	<p>つる植物は、成長に伴い、ツル状の幹や枝が地表面あるいは他のものに「はう」「吸い付く」「巻き付く」「垂れる」などより植物体を支える植物をいいます。生育が旺盛で厳しい環境圧に耐える強健な植物が多く、近年、地被として用いられたり、建築空間の壁面緑化などに多用されています。</p>
<p>デジタルデバイス</p>	<p>インターネットやパソコン等の情報技術を利用できる者と利用できない者との間に生じる格差のことです。</p>
<p>とうすいせいへいばんほそう 透水性平板舗装</p>	<p>透水性のコンクリート平板及び目地を通して雨水を地中に浸透させる機能をもつ舗装をいいます。透水性のインターロッキングブロック舗装も含まれます。浸透原理は透水性舗装と同じです。</p>

タ行

用語	解説
とうすいせいほそう 透水性舗装	舗装体を通じて雨水を直接路床へ浸透させ、地中に浸透させる舗装をいいます。
どうろしんとう 道路浸透ます	道路排水を対象にした浸透ますをいいます。
としがたすいがい 都市型水害	都市型水害とは、内水氾濫をさす場合もあれば、都市のコンクリートやアスファルト等による人工被覆率の増加（地下浸透率の低下）によって誘発される外水氾濫を含めることもあります。いずれも、都市特有の冠水・浸水被害の長期化による影響をさすのが一般的です。都市型水害が発生すると、経済的に大きな打撃を受けるばかりでなく、ごみの発生や病原菌の拡散など衛生面の問題につながることもあります。
としけいかくぜい 都市計画税	地方税法により、都市計画区域内の土地・建物に、市町村が条例で課すことのできる税金のことです。
としこうえん 都市公園	地方公共団体又は国が設置する公園又は緑地のことです。
としのうち 都市農地	区内にある農地のように、市街地及びその周辺において耕作の行われる土地を都市農地といいます。

ナ行

用語	解説
ないすいはんらん 内水氾濫	平坦な土地に強い雨が降ると、雨水がはけきらずに地面に溜まり、排水用の水路や小河川は水位を増して真っ先に溢れ出します。このようにして起きる洪水のことを内水氾濫といいます。
にきゅうかせん 二級河川	一級水系以外に係る河川で都道府県知事が指定するものです。
ネイチャー ポジティブ	昆明・モンテリオール生物多様性枠組では、2030年ミッションとして「2030年までに生物多様性の損失を止めて逆転させ、回復への軌道に乗せるために緊急の行動を取る」を掲げました。この考え方を「ネイチャーポジティブ」と呼びます。令和5(2023)年に策定された新たな生物多様性国家戦略 2023-2030 においては、ネイチャーポジティブ（自然再興）の実現を、目標として設定しています。

ハ行

用語	解説
パラダイムシフト	ある時代・集団を支配する考え方が、非連続的・劇的に変化すること。社会の規範や価値観が変わることをいいます。

八行

用語	解説
ヒートアイランド現象 げんしやう	都市域の気温が周辺部より高くなる現象のことで、冷暖房や排気ガスなど人工熱の放出と、気温の上昇を抑える緑地の減少などが原因といわれています。等温線が島の等高線に似るところから、熱の島といわれています。
ビオトープ	本来その土地に生息生育すると考えられる様々な野生動植物が、生息生育することが可能な空間のことで、「動植物の生息生育空間（環境）」との意味です。
壁面緑化 へきめんりよつか	建築物の壁面を植物で緑化することです。
保水性堅樋 ほ すいせいいたてどい	保水性や冷却効果等に優れた「ガラス発砲ブロック」を金網の籠に充填して雨樋（ <small>あまたし たてどい</small> ）の役割を持たせたものです。

マ行

用語	解説
水循環 みずじゆんかん	水が、蒸発、降下、流下又は浸透により、海域等に至る過程で、地表水又は地下水として河川の流域を中心に循環することをいいます。
みどり率 りつ	緑が地表を被う部分（樹木地、草地、農地、屋上緑地）に水面と公園内の緑に被われていない部分を加えた面積が地域全体に占める割合のことです。
武蔵野台地 むさしのだいち	北を荒川、入間川、南を多摩川に囲まれた地域に広がっている台地のことです。

ヤ行

用語	解説
屋敷林 やしきりん	防風などを目的として、屋敷の周囲に植えられたケヤキやモウソウチクなどの林のことです。
湧水保全重点地区 ゆうすいほぜんじゆうてんちく地区	みどりの基本条例に定めるみどりの重点地区で、湧水の涵養のため、積極的にみどりの保全及び創出の推進を図る必要がある地区のことです。
遊歩道 ゆうぽうだう	周囲の自然を楽しみながらのんびり歩く道路のことをいいます。
幼木 ようぼく	発芽してからあまり年数の経っていない木のことで、若い木を指す言葉です。

ラ行

用語	解説
ライフライン	生活や生存に必要なものを供給する設備や経路のことであり、水道、電気、ガス、電話、インターネット等があげられます。
裸地 <small>はだち</small>	植物や建築物等に覆われておらず、土がむきだしになっている土地のことです。
リデュース	ものをつくる時に使う資源の量や廃棄物の発生を減らすことで、廃棄するもの自体を減らすことです。
リハビリテーション	能力が低下した場合に、機能的能力が可能な限り最高の水準に達するように個人を訓練あるいは再訓練するために、医学的・社会的・職業的手段を併せ、かつ調整して用いることです。
流域対策 <small>りゅういきたいさく</small>	流域対策とは、流域内に雨水貯留浸透施設や各家庭に雨水浸透ますなどを設置して、雨水が河川へ流れ込む量を一時的に抑える対策のことをいいます。
流域対策推進地区 <small>りゅういきたいさくすいしんちく</small>	過去に浸水被害があるなど、特に流域対策（雨水貯留浸透）の推進・促進を図る必要がある区域のことです。
リユース	一般的に、一度利用した製品をそのままの形体で、または製品の部品をそのまま再使用することです。
緑陰 <small>りょくいん</small>	木の青葉が茂ってできるひかげのことです。
緑道 <small>りょくどう</small>	緑道とは、自然を取り戻し、歩行者の安全と緊急避難通路の確保などを目的として作られてきたもので、世田谷区では、昭和 44 年以降、暗渠化されていく中小河川の上流を有効利用する方法として、緑道の造成に力をいれてきました。
緑被率 <small>りょくひりつ</small>	緑が地表を被う部分（樹木、草地、農地、屋上緑地）の面積が地域全体に占める割合のことです。
緑化率 <small>りょっかりつ</small>	緑化率とは、建物の敷地面積に対する緑化施設の割合のことです。ここでいう緑化施設とは建築物が建っていないスペースや屋上等の屋外にある、植栽や花壇、樹木などの施設を指します。緑化率は、各自治体によってルール化され義務付けられており、建造物を建築する際は、定められた緑化率を守る必要があります。
緑溝 <small>りょっこう</small>	溝状に掘削した部分に砕石層（浸透基盤）を設置することにより、雨水を貯留させながら地中へ分散、浸透させる施設をいいます。

ラ行

用語	解説
りょっこう しほはりそっこう 緑溝(芝張側溝)	溝状に掘削した部分に砕石層（浸透基盤）を設置し、地表面には芝を敷設した構造とすることにより、雨水を貯留させながら地中へ分散、浸透させる施設をいいます。
レインガーデン	地盤部を砕石等で置換することにより、雨水を貯留させながら地中へ分散、浸透させる施設をいいます。

ワ行

用語	解説
ワークショップ	教育や学習の場面で用いられる場合、一連の流れをもった学びの様式、もしくは場として理解されます。参加体験型グループ学習と意識されることもあり、一方通行的な知識伝達型の学びに対置するもので、体験学習法を取り入れ、主体的に参加する学習者が、経験や知識を共有しながら互いに学び合うことを特徴とします。環境教育では、知識・理解だけに留まらず、主体的な関与・参画が重視されるため、環境教育に適した学びの手法として、各地で盛んに取り組まれています。

3. アンケート調査

3.1 方法

(1)調査対象：区民

(2)対象数：20歳～59歳（1,511）、60歳～79歳（489）の合計2,000

(3)調査方法：配布（郵送）・回収（原則WEB、60歳以上はWEB及びハガキ回答の併用）

(4)調査期間：令和5年11月14日発送（15日着）～29日〆切

(5)有効回答数：278（WEB回答：163件、ハガキでの回答：115件）

*回答率：13.9%

3.2 結果

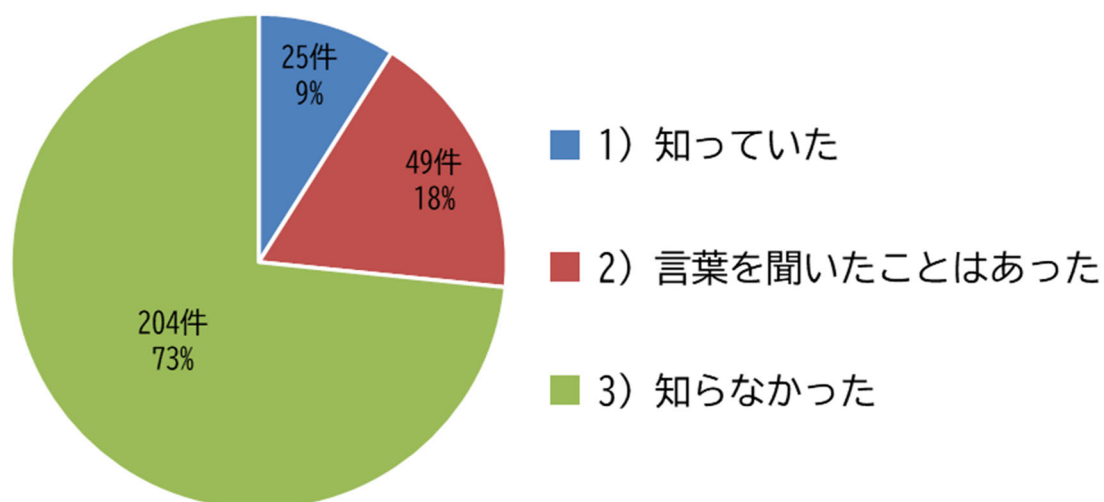
以下に、得られた回答の単純集計と主な設問についてのクロス集計の結果を示します。

本調査結果より得られたグリーンインフラの取組みに係る課題と区の対応方針については、ガイドライン【本編】「4.3 今後のグリーンインフラの普及啓発に向けた取組み」(p. 34～35)に整理しました。

1)単純集計結果

問1 「グリーンインフラ」を知っていましたか。(答えは1つ)

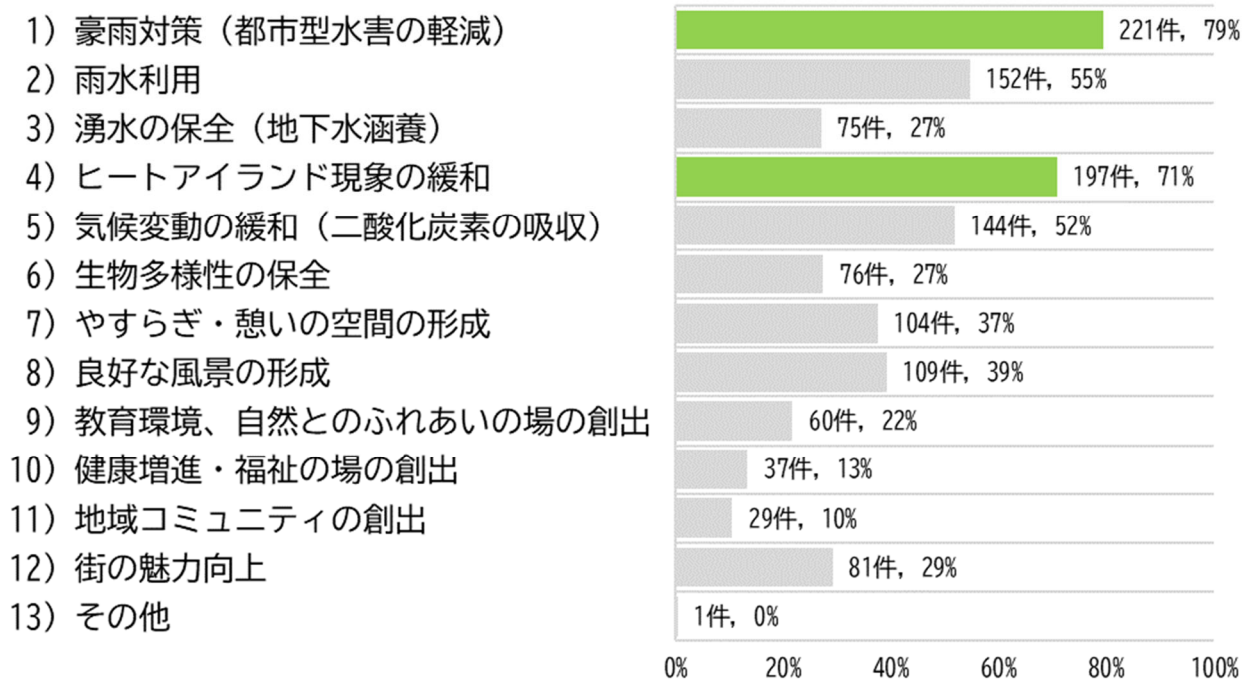
グリーンインフラを「知っていた」人が 9%、「言葉を聞いたことはあった」人が 18%、「知らなかった」人が 73%であり、グリーンインフラを内容まで知っていた人は 1割に満たないことがわかりました。



問 2 あなたが「グリーンインフラ」に期待するもの（メリット）は何ですか。
（いくつでも）

グリーンインフラに期待するもの（メリット）については、1位が「豪雨対策（都市型水害の軽減）」、2位が「ヒートアイランド現象の緩和」でした。

グリーンインフラが「豪雨対策（都市型水害の軽減）」や「ヒートアイランド現象の緩和」に有効であることを認識していることがうかがえます。

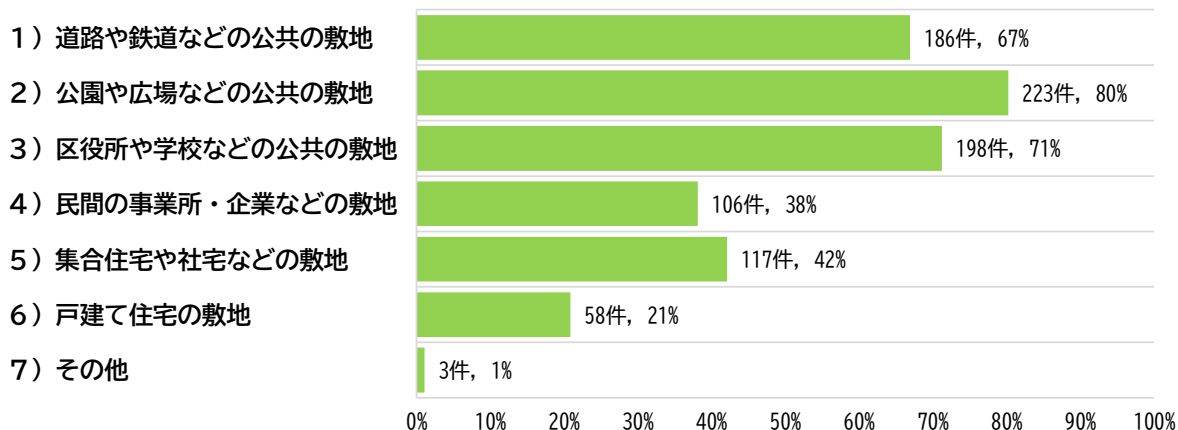


問 3 あなたは、次の「ア）～キ）」に示す「グリーンインフラ」の主なメニューについて、それぞれどのような場所で取組むことが望ましいと思いますか。答えは選択肢の中から選んでください。（いくつでも）

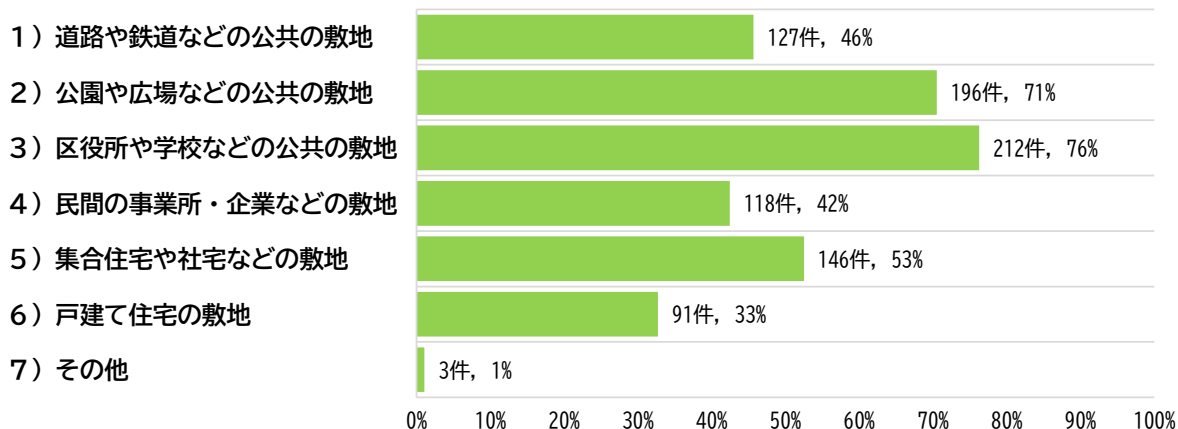
今回提示したグリーンインフラの主なメニューについて、どのような場所で取組むことが望ましいかを質問したものです。

「雨水浸透施設（雨水浸透ます・浸透トレンチ）」、「透水性舗装」のように、『豪雨対策（都市型水害の軽減）』や『湧水の保全（地下水涵養）』に効果が限定される施設については、公共の場所での導入を望む回答が多く、「雨水タンク」、「生垣などの植栽」、「壁面緑化・屋上緑化」、「雨庭」、「花壇、プランター」のように、雨水の利用や植物要素が加わる施設については、民間の敷地での導入を望む回答も増加する結果となっています。

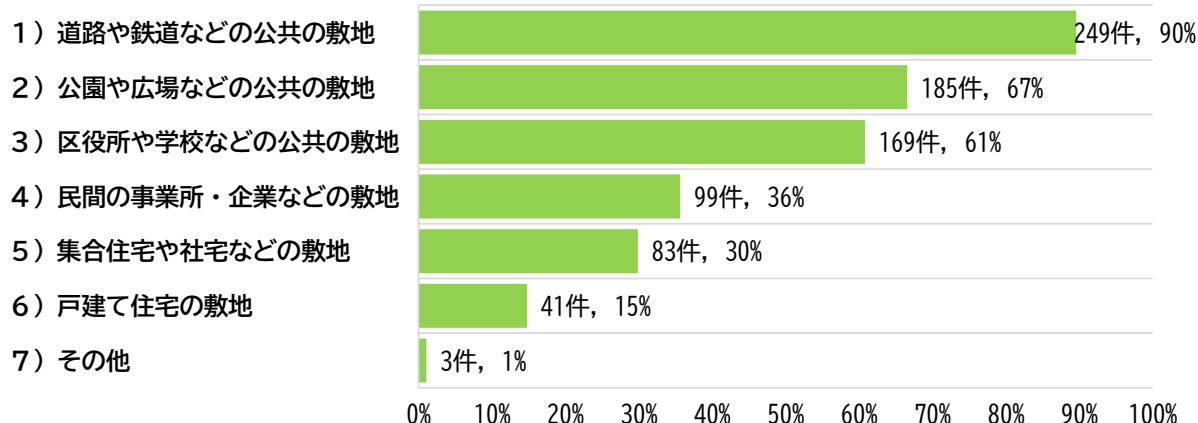
ア) 雨水浸透施設（雨水浸透ます・トレンチ）



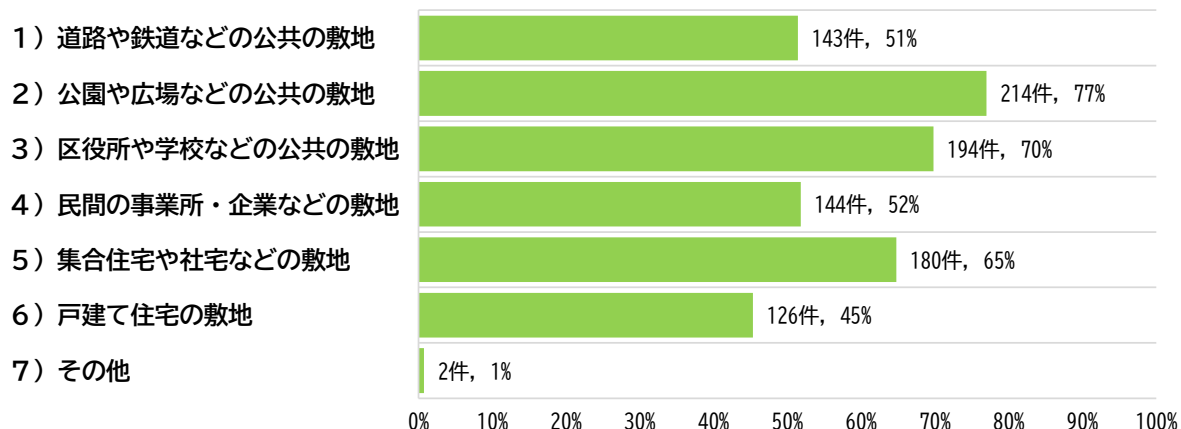
イ) 雨水タンク



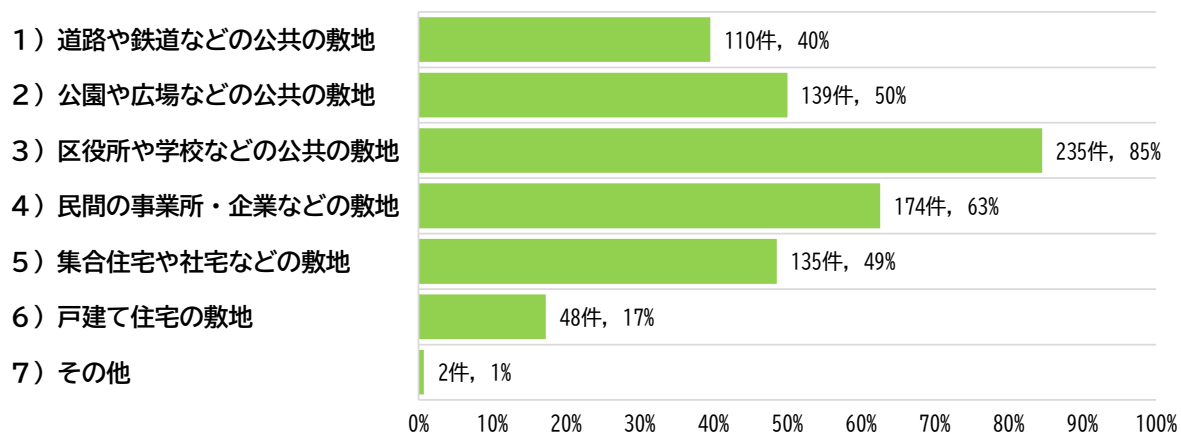
ウ) 透水性舗装



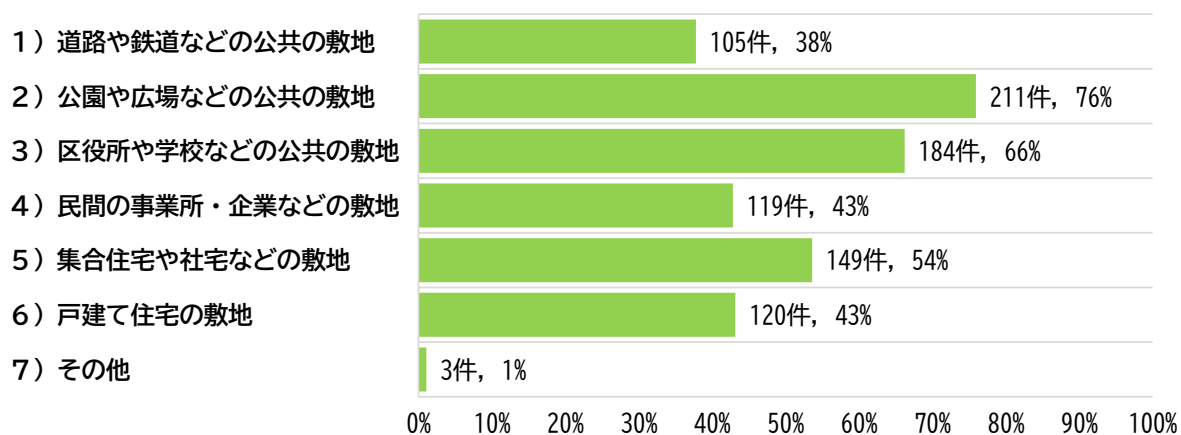
エ) 生垣などの植栽



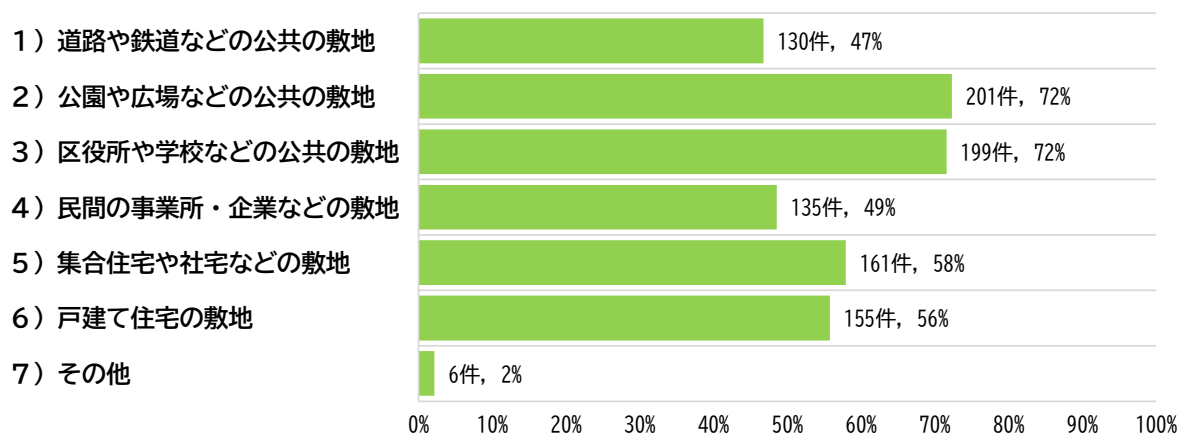
オ) 壁面緑化・屋上緑化



カ) 雨庭（浸透性を高めた庭）

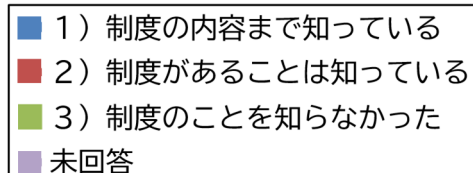
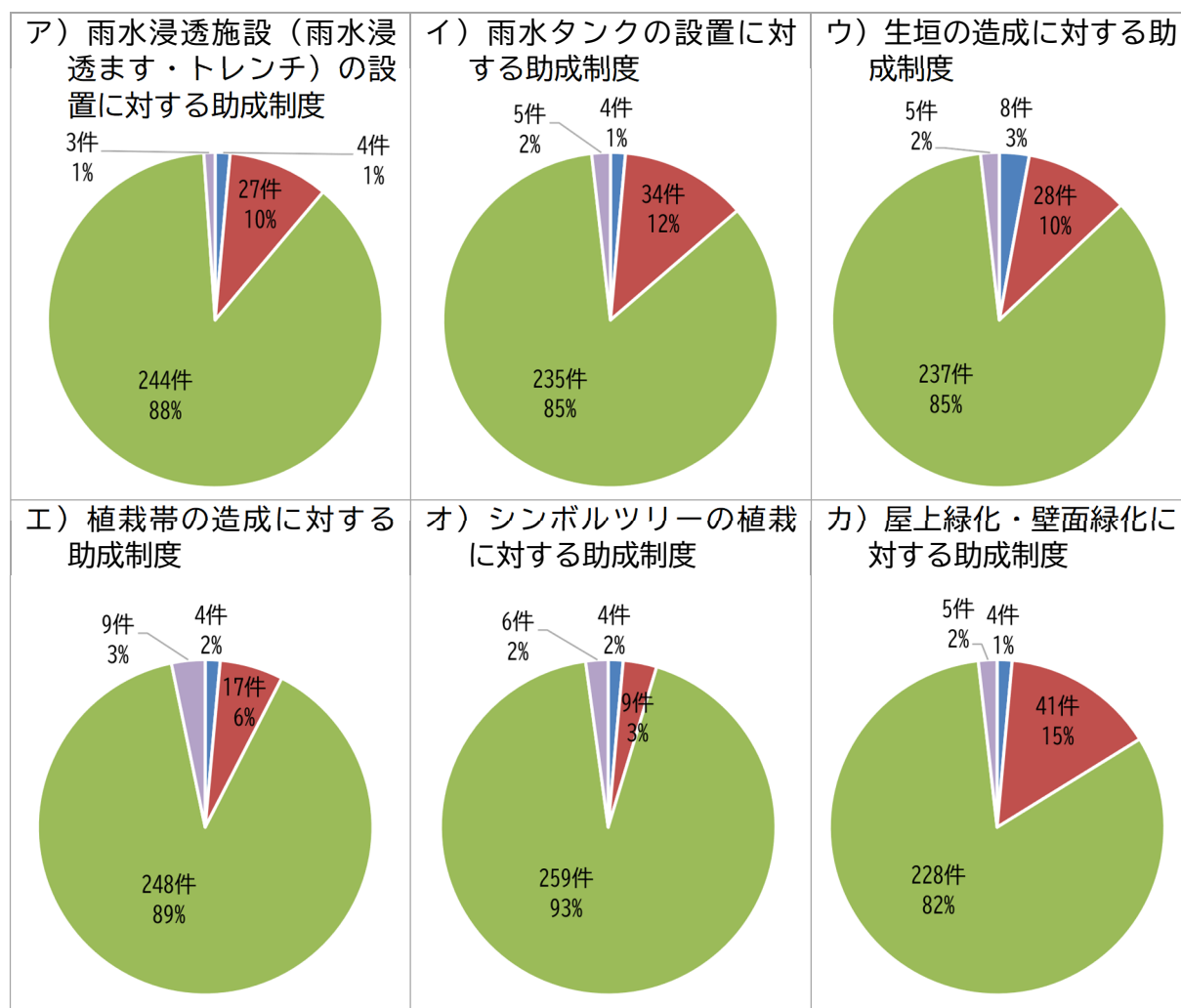


キ) 花壇、プランター



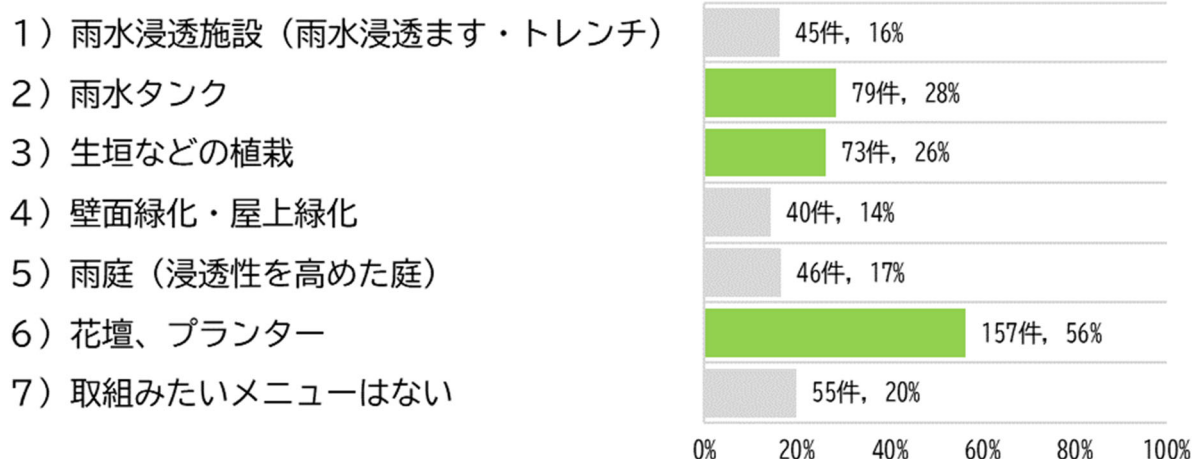
問 4 区では、区民のみなさんが「グリーンインフラ」の取組みを行う際に利用することができる各種の「助成制度」を用意しています。次の「ア）～カ）」に示す制度について、知っていましたか。 答えは選択肢の中から選んでください。（答えはそれぞれ1つ）

提示した6つの助成制度の全てで、8割を超える人が「制度のことを知らなかった」と回答しています。



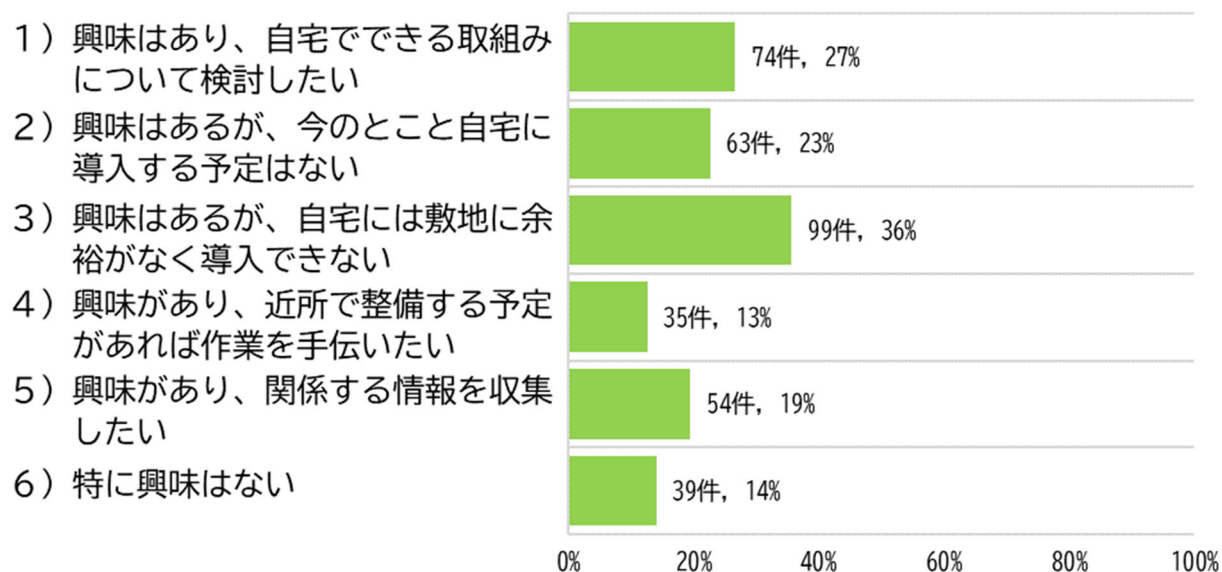
問 5 あなたが、今後ご自身で取組みたい「グリーンインフラ」のメニューはありますか。（いくつでも）

今後、自身で取組みたいグリーンインフラのメニューについて、1位は「花壇、プランター（56%）」、2位は「雨水タンク（28%）」、3位は「生垣などの植栽（26%）」となりました。



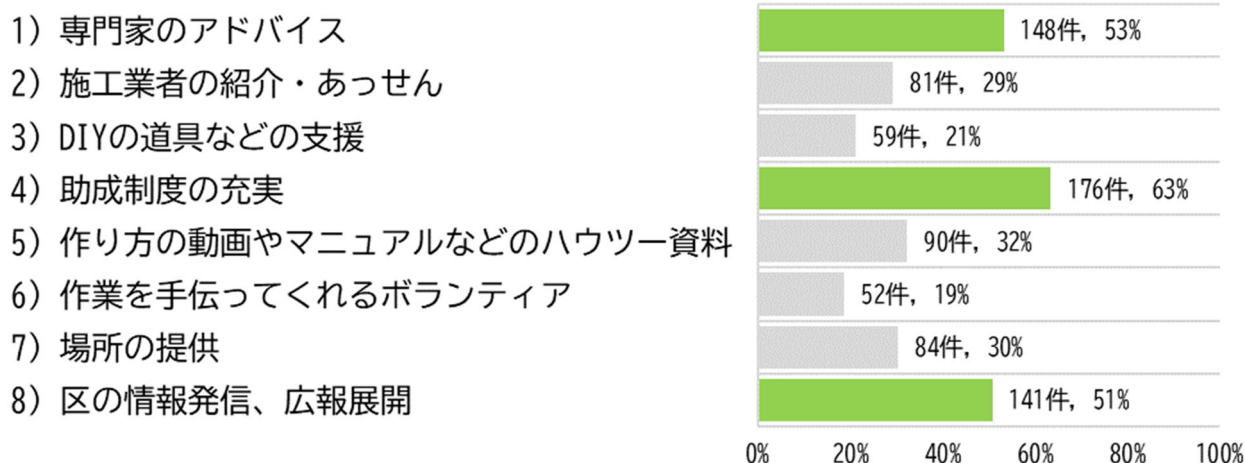
問 6 あなたご自身の「グリーンインフラ」の取組みへの考え方について教えてください。（いくつでも）

自らが実施する立場になった場合の導入可否等について質問したものであり、「興味があり、自宅でする取組みについて検討したい（27%）」、「興味があり、関係する情報を収集したい（19%）」といった前向きな回答も見られますが、最も多かった回答は、「興味はあるが、自宅には敷地に余裕がなく導入できない（36%）」であり、その他にも、「興味はあるが、今のところ自宅に導入する予定はない（23%）」、「特に興味はない（14%）」といった、あまり前向きではない意見も見られます。



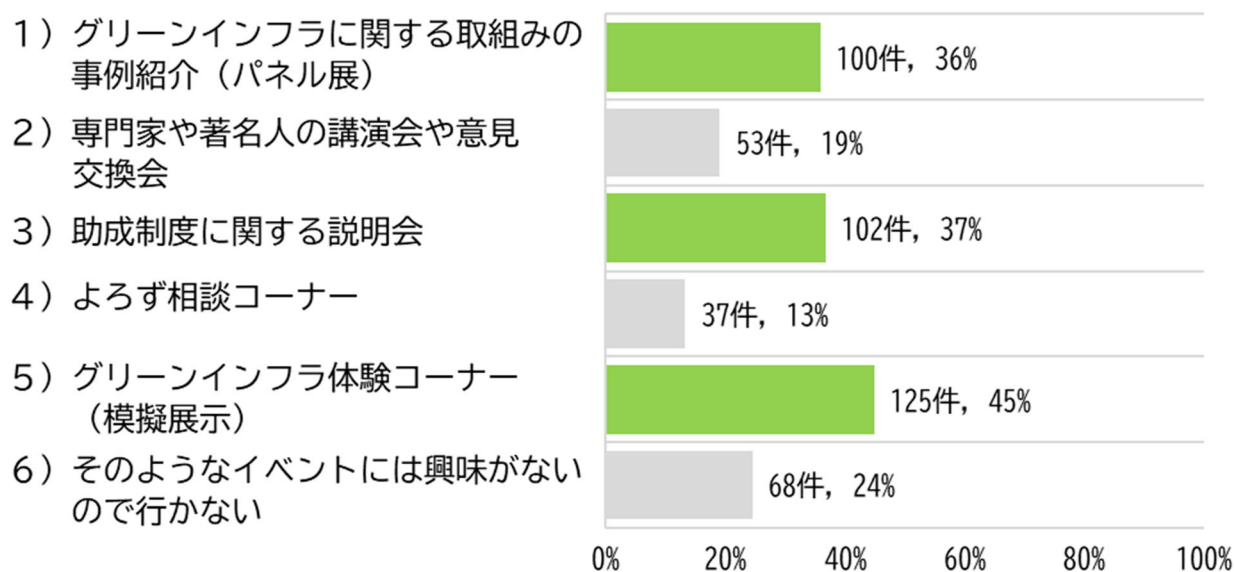
問 7 「グリーンインフラ」のさまざまな取組みを拡げていくために、必要なものは何だと思いますか。（いくつでも）

回答者が、これがあればグリーンインフラの取組が広がるのではないかと考えているものを質問したもので、1位が「助成制度の充実(63%)」、2位が「専門家のアドバイス(53%)」、3位が「区の情報発信、広報展開(51%)」でした。



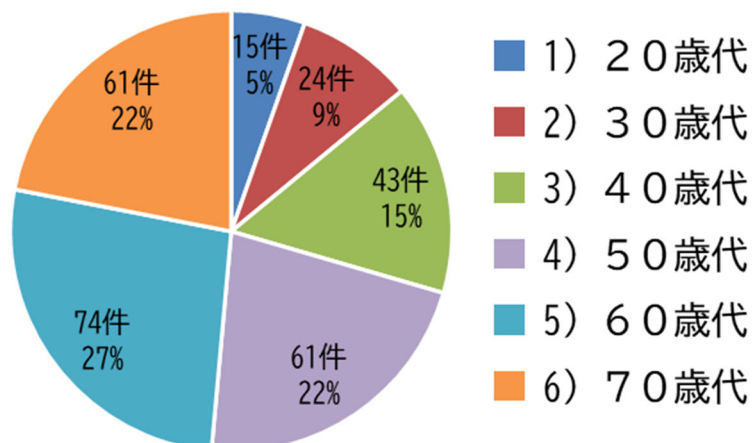
問 8 「グリーンインフラ」に関するイベントが今後開催されるとなったとき、どのような内容があったら会場に足を運びますか。（いくつでも）

「グリーンインフラ」に関するイベントで興味がある内容についての質問では、突出した回答は見られず、1位が「グリーンインフラ体験コーナー（模擬展示）(45%)」、2位が「助成制度に関する説明会(37%)」、3位が「グリーンインフラに関する取組みの事例紹介（パネル展）(36%)」でした。



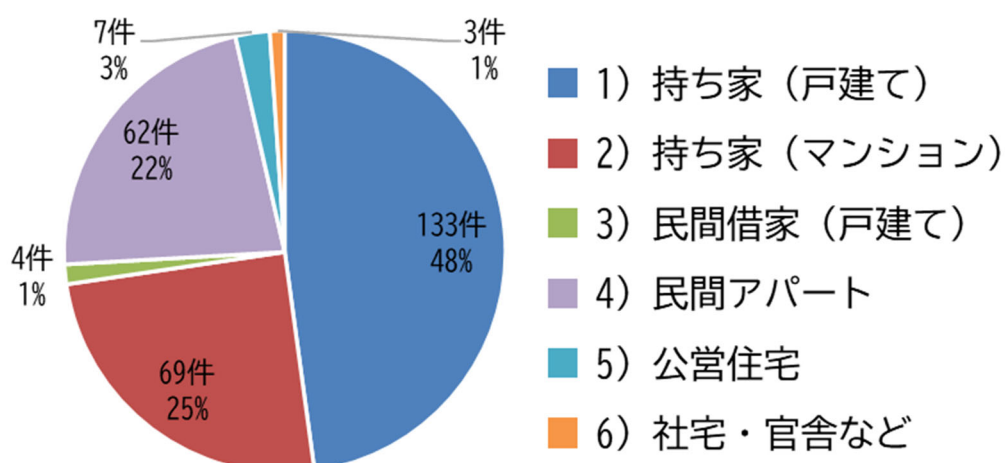
問 A. あなたの年齢について、あてはまるものを選んでください。（答えは1つ）

回答者が最も多い年齢層は 60 歳代であり、全体としては、高齢の人ほど回答率が高く、若い人ほど回答率は低い傾向にありました。



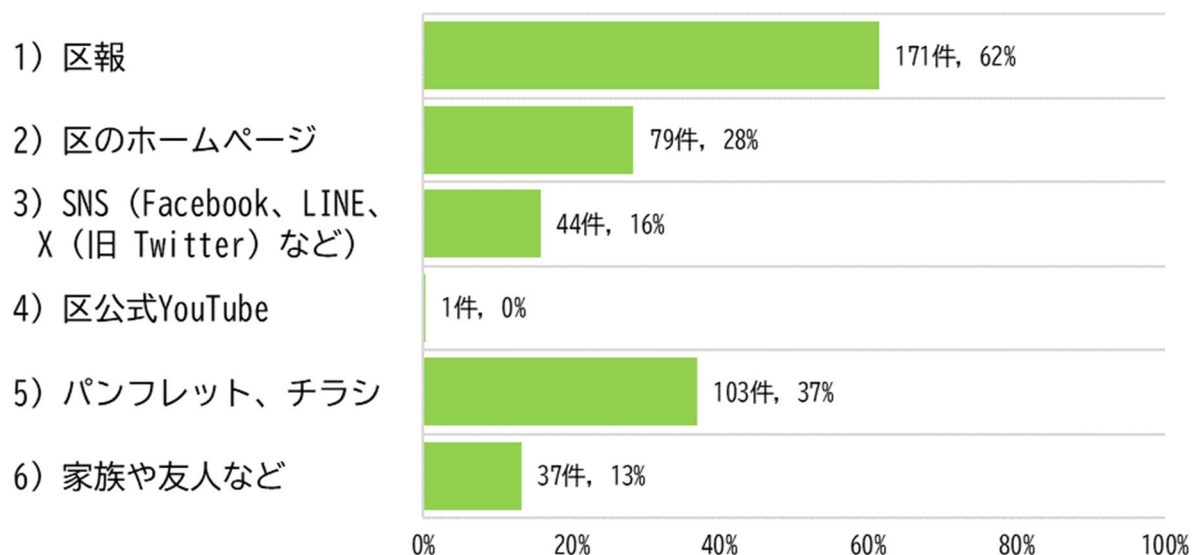
問 B. あなたのお住まいについて、あてはまるものを選んでください。（答えは 1 つ）

回答者の居住形態について、1 位が「持ち家（戸建て）（48%）」、2 位が「持ち家（マンション）（25%）」、3 位が「民間アパート（22%）」であり、持ち家（戸建て・マンション）の人の割合は 73%にのぼっています。



問C. あなたは、区からの情報を次の何で知りますか。（いくつでも）

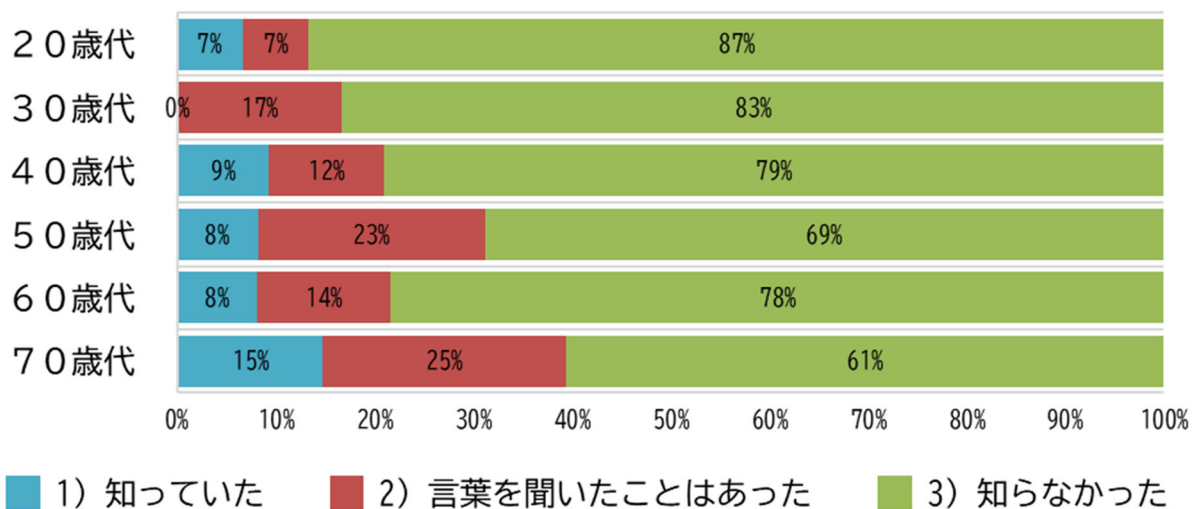
区からの情報の入手手段を見ると、「区報」や「パンフレット、チラシ」といった媒体を選択する人が多くみられました。一方で、インターネットに接続することを前提とする「区のホームページ」、「SNS」、「区公式 YouTube」を選択する人は比較的少なく、特に「区公式 YouTube」については1件でした。



2) クロス集計結果

問1×問A 年代による認知度には違いがあるか。

年代別に見ると、「知っていた」と「言葉を聞いたことはあった」をあわせた割合が最も高かったのは70歳代であり、最も低かったのは20歳代でした。



問A×問C 年代別に選択される区の媒体

年代別に見ると、20歳代で最も多く選ばれた媒体はSNS（41%）であり、区報は9%にとどまっています。逆に、70歳代で最も多く選ばれた媒体は区報（60%）であり、SNSは1%にとどまっています。

